【概要版】越前市地域公共交通計画（令和７年度～令和１１年度）　（案）

1　概要

1．背景

■公共交通の利用者が大きく減少するとともに、運転士不足による路線バスの減便や廃線など交通事業者も厳しい現状に面している中、本市の公共交通を取り巻く現状やさまざまな課題を洗い出し、便利で持続可能性の高い公共交通ネットワークを構築するため、今後の市全体の公共交通に関する目標や取組みの方向性を示す計画として、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に規定される「地域公共交通計画」を策定することとしました。

2．目的

■従来の公共交通の見直しだけでなく、新しい交通の導入を検討し、本市の公共交通の最適化を図り、市民や来訪者にとって安全かつ安心で「誇りを持って住み続けたくなるまち」、「何度でも訪れたくなるまち」となることを目指しています。

3．計画期間

■令和7年度（2025年度）から令和11年度（2029年度）までの5年間

2　現状と課題

課題①　公共交通の確保と維持

・少子高齢化や高齢ドライバーの増加、コロナ禍による公共交通利用者の減小。
・利用者の減少による路線の廃線や減便など公共交通のサービス低下とそれに起因した交通事業者の経営の悪化。

✓ **公共交通の利便性向上を図り、車に依存する意識の軽減と公共交通への利用転換の促進が必要**

課題②　公共交通に対する市民満足度の向上

・既存の公共交通利用者の満足度は決して高くないという結果（市民アンケートから）。
・交通が不便な地域において、高齢者や小中高生の移動手段が乏しい現状。

✓ **地域の実情や以降に応じて利便性の高い交通手段の検討や導入が必要であり、なおかつ市民が分かりやすく、利用しやすい公共交通の周知や情報発信が必要**

課題③　北陸新幹線「越前たけふ駅」からの二次交通の整備と充実

・越前たけふ駅はハピラインふくい武生駅や武生市街地から約3km離れて立地。
・武生駅やまちなか周遊、本市の点在する伝統産業の産地、観光地をつなぐ移動手段が不可欠。

✓ **各方面からの来訪者が「越前たけふ駅」と市内の主要拠点をスムーズに移動できる移動手段の提供が必要**

課題④　公共交通の見直しと最適化

・「働き方改革」である2024年問題の影響で、運転士不足による路線バスが減便や廃線になるなど運転手の高齢化と不足が深刻化。
・公共交通利用者が減少する半面、燃料費や人件費の高騰により、公共交通の収支率が悪化し、公的負担も増加

✓ **公共交通を持続可能なものとするため、交通サービスと公的負担の見直しを行い、交通事業者同士の連携や教育、福祉など他分野との協働し、公共交通の最適化が必要**

3　計画の方針・目標

1．基本方針

つなぐ、つながる　新・交通まちづくり

～安全と安心を実感できる持続可能な公共交通ネットワーク～

2．目標とその達成に向けた取り組み

目標①　「安全・安心」につながる　安全に安心して移動できる「公共交通」

・市民バス「のろっさ」の安定運行、再編
・３つの鉄道の運行支線、利用促進
・広域路線バスの運行支援
・公共交通に対する意識啓発と利用促進

目標②　「地域」と「笑顔」をつなぐ　生きがいと移動の楽しみを実感できる「地域交通」

・ニーズに応じたデマンド交通の運行、利用促進
・自家用有償旅客運送の運行
・高齢者や障がい者、運転免許自主返納者等への支援
・公共交通についてのわかりやすい情報発信

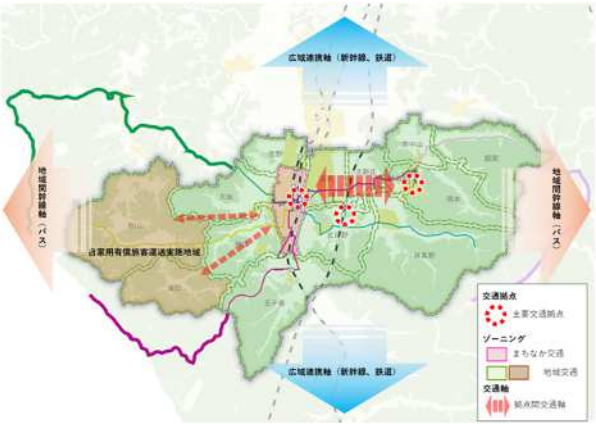
目標③　「来訪者」と「ふるさと」をつなぐ　一足延ばして訪れたくなる快適で多様な「二次交通」

・越前たけふ駅の利便性向上と利用促進
・公共交通の乗り継ぎの利便性向上
・越前たけふ駅からの多様な交通の整備と情報発信
・環境に配慮した交通やウォーカブルなまちづくりの推進
・観光ＭａａＳの推進

目標④　「新技術」と「人」がつながり、未来へつなぐ　新しい交通や様々な主体との協働による持続可能な「未来型交通」

・自動運転の導入検討
・交通分野のＤＸを推進
・公共交通を支える人材の確保
・公共交通ネットワークの最適化
・地域の多様な輸送資源による足の確保

3．評価指標と目標の設定

評価指標		現況値（R5）	目標値（R11）
市民満足度		3.2点	4.0点
新交通システムにおける人口(地区)カバー率		30.5%	100%
新交通システムの利用者数（年間）	デマンド	R5.10～R6.3 476人	15,000人
	自家用有償	R5.8～R6.3 436人	3,400人

4．公共交通のネットワークの再編　イメージ